2008 年度事業報告

NPO 法人日印交流を盛り上げる会

2007 年日本国内で行われた「日印交流年」は、一年を通してインド政府であるインド文化評議会（ICCR）とインド大使館が協力して「The Festival of India（インド祭）」を展開しました。

2006 年 12 月、日本で行われたインド祭の開会式のために来日したマンモハン・シン首相と日本の安倍首相との間で「戦略的グローバルパートナーシップ」が締結されましたが、ICCR はこれに基づき年間を通して、インドの様々な音楽・舞踊の中でも優れたグループを毎月 1 つ～2 つ日本に派遣しました。当会はインド大使館の依頼を受け、「The Festival of India（インド祭）」を盛り上げ、文化交流・理解に繋げるべく全面的に協力をしました。日本全国 35 都道府県、北は利尻町から南は与那国町に至る 60 余の市町村で、162 の事業が開催されましたが、当会はこれらの事業の大半に協力・共催して実現に向けて力を尽くしました。インド大使館としては、日本における「二国間交流事業」で、このような全国津々浦々で開催されたことは初めてで大成功と考えています。

インド祭の成功によって文化交流の期待が大きく高まっている状況に対して、インド大使館では 2008 年も「08 日印文化交流(08India-Japan Cultural Exchange)」というタイトルの元に、前年のインド祭に近い規模の交流イベントを開催したいという希望を持ち、当会に協力の要請をしてきました。当会では、その協力要請に対して全面的に協力しました。

①インド文化交流評議会派遣オディッシー舞踊（7名、5/19-5/31）

「08 日印文化交流(08India-Japan Cultural Exchange)」の皮切りの事業として、インド政府はオリッシー舞踊団を派遣、新潟県内の佐渡市、新潟市、糸魚川市で公演しました。佐渡市赤泊は、過去 17 年にわたりインドを中心に国際交流事業を継続してきました。赤泊とその周辺は、県内でも異文化交流の先駆的な地域です。

オリッシーは、インド東部ベンガル湾に接するオリッサ州に伝わる寺院つきの巫女の踊りに発する舞踊で、インド七大古典舞踊の一つとして知られる。その起源は紀元前 2 世紀に遡ると言われる。

オリッシーの人を惹きつける魅力は、コナラク寺院などに見られる「踊る神像」の写しの姿で、身体を三部位、ヘッド(頭部)、バスト(胸部)、トルソー(胴部)に分ける難易度の高い身体美をもつ。しなやかで叙情的なこの古典舞踊は、歌われる幽玄なサンスクリット詩句やオリヤー語によって、ジャガンナート神の哲学やクリシュナ神の愛の詩を通してオリッサの固有な世界と雰囲気を表現する。

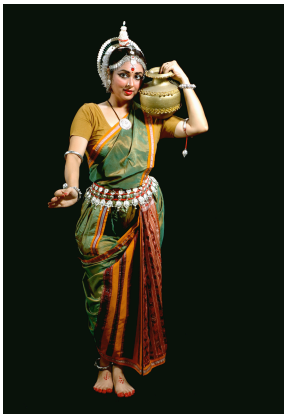
ビシュワスは、生き残ったオリッシー伝承の担い手テーヴァダシー最後の二人のマハリからオリッシーの踊りのスタイルを、テクニックと哲学をグル・ケルチャラン・マハパトラから、カラニディ・ナラヤン女史には身体と魂の合一、観客とコミュニケーションとの共応の世界を学ぶ。今は、踊りを超える領域を探検する演出家として国内外で活躍している。

<u>オリッシー舞踊団</u>

Ms. Sharmila Biswas ダンサー&団長(Troupe Leader & Dancer)

Ms. Meenakshi Chandra　ダンサー(Dancer)
Ms. Shashwati Garai　ダンサー(Dancer)
Ms. Piyali Bhattacharya　ダンサー(Dancer)
Ms. Priyanki Roy　ダンサー(Dancer)
Mr. Krishnendu Roy　ダンサー(Dancer)
Mr. Neelay Sengupta　ダンサー(Dancer)

日時	内　　容
5/19	来日
5/20	赤坂区民ホールで開会式に参加/その余興として踊りを披露.
5/21	東京→赤泊
5/22	ワークショップ　赤泊保育園(午前)
	ワークショップ　赤泊中学校(午後)
5/23	ワークショップ　川茂小学校(午前)
	ワークショップ　赤泊小学校(午後)
	歓迎交流会に出席(19:00～)
5/24	老人福祉施設で公演(30分)
5/25	鬼太鼓ドットコムで公演(40 分)
	赤泊総合文化会館で公演(80 分)
5/26	佐渡→直江津→十日町(ミティラー美術館の宿泊施設)
5/27	新潟市音楽文化会館で公演 (80 分)
5/28	
5/29	糸魚川市で公演(80 分)
5/30	江戸川総合文化ホールで公演(80 分)
5/31	帰国



②インド文化交流評議会派遣 The Raghu Dixit Project(5 名、9/26-10/2)

The Raghu Dixit Project(5 名)は、ナマステ・インディア 2008 のメインとしてインド文化交流評議会(ICCR)より派遣されました。

このグループは、インドの文化を色濃くもつフォーク＆ロックの音楽で、インドIT の集積するマイソール出身です。この地方で知られる 19 世紀の伝説的な聖者シシュナーラ・シャリフの詩を歌った「ソルティフドウ・マネヤ・モーリギ」は全インドでヒットしました。カルナータカ州のカンナダ語で歌われる詩の内容は、「私の屋根は、無知で雨漏りしていると嘆く・・・。」名曲で大ヒットした「グルグディャ・セディ・ノダ」は複雑な人生の哲学をわかりやすい比喩で表現します。「心という小さな袋の中にある悲しみや渇望を引っ張り出して砕き、知恵の炎を灯しなさい。」と歌い上げます。

インドの深い知恵や情感を現代的なブルースやレゲエ、ロックやフォーク、インドの古典音楽や民族音楽など、あらゆるジャンルを融合させながらも、インド的な彼らの音楽は人々に強く訴えるヒュージョンとなっています。

30 年後には世界一の人口になるといわれるインド、日本にとって大事な国となるインドは、多様な文化を内包し世界的な注目度を深めながら歩んでいます。200 年にわたる大英帝国の支配から独

立して 61 年。明治開国以来、急速に西欧化することで強国の支配を逃れることができた日本、自国の文化に対する思いは異なります。1930 年代、日本の国民の 8 割がラジオで聞きたかった浪曲。その頃に生まれた日本の芸能には、日本の文化のエキスが濃かったことが知られています。たとえロックであっても、インド的な思想や哲学を感じさせるインド。日本の若者たちに、彼らの音楽はさまざまな示唆を与えたのではないかと思います。

9/26	来日
9/27	ナマステ・インディア
9/28	ナマステ・インディア
9/29	東京→神戸
9/30	神戸・東灘区民会館うはらホール
10/1	東京・赤坂区民センター
10/2	帰国

③インドフェスティバル・ナマステ・インディア2008（9/27-9/28）

東京・代々木公園/共催: インド大使館、インド文化交流評議会(ICCR)、ナマステ・インディア実行委員会、NPO法人日印交流を盛り上げる会、インドセンター、インド政府観光局

代々木公園で開催されたナマステ・インディア 2008 は、天候にも恵まれ、16 万人の人出でにぎわいました。
これは食・物産・舞踊・音楽など多彩なインドの文化を知り、楽しみ、交流する目的で毎年秋に都内で開催されているインド・フェスティバルです。1993年、(財)アジアクラブと日印経済委員会の共催で始まりました。現在はインド大使館をはじめ、インド政府観光局、外務省、東京都、日本・東京商工会議所、日印経済委員会、(財)日印協会など多くの後援とナマステ・インディアの関係団体の参画をベースに、ナマステ・インディア実行委員会、NPO法人日印交流を盛り上げる会、インドセンターとが企画・実行するイベントです。

④インド文化交流評議会派遣インド古典舞踊カタック(6 名)&インド古典音楽シタール(3 名)

親子で共演するシタール。今では世界で知られる弦楽器シタールは、ソロの他、踊りの伴奏でも活躍。

カタック舞踊は、旋廻を基本とする激しい動きと、ピタッと止まって見栄を切るような仕草が特徴。艶やかな衣装の踊り手は、インドの宮廷文化を反映しています。足につけた鈴を打ち鳴らし、激しく踊る姿は、フラメンコの源流と言われます。

カタックグループ

1. Dipanwita Singha Roy (女･ダンサー) 団長
2. Daniel Freddy(男･ダンサー) 団長
3. Fateh Ali(男･シタール)
4. Anirudda Mukherjee(男･タブラ)
5. Rishab Prasanna(男･竹笛)
6. Subrata Roy(男･ボーカル)

Mr.Daniel Freddy
カタックの世界で彼の名前は大変よく知られている。特にカタックの真髄といわれる純粋舞踊ヌリッタ、歌詞に対応する気分やストーリーを身体全体で表現するアビナヤにおいて、技術的にも熟達したマスター。さらにチョウの踊りにおいてもマスター。

Dr.Dipanwita Singha Roy
インド国営放送ドゥールダルシャンの踊りのプログラムや国内外のフェスティバルに招聘される。現在、大学で学生の指導の傍ら、自身もダンスセンターを作ってカタックの新たな次元に向けて研鑽。

シタールグループ

7. Syed Ahmad(男･シタール)
8. Hafeez Ahmed(男･タブラ)
9. Azeem Alvi Ahmed(男･シタール)

Mr.Sayyed Ahmed Alvi は、シタールで有名な音楽家系の出身。子どもの頃からステージで演奏、インド国営放送ドゥールダルシャンの音楽番組に出演して聴衆を魅了。インド国内はもとより、エジプト、オーストラリア、オランダ、ドイツ、フランス、ギリシャ、日本他、世界各国で公演。

10/9－10/13	福岡アジア･フェスティバル会場
10/18-19	横浜ディワリフェステイバル
10/24	刈谷市、中学校ワークショップ
10/25	十日町産業フェスティバル
10/26	ナマステ･インディア in 刈谷(愛知)
10/28	光恩寺フェスティバル(群馬･千代田町)